

建築主：野口 直昭
設計：小島広行 + デ・スタイル建築研究所
施工：株式会社巴建設
所在地：成田市

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

田園風景とモダン建築の課題

Bridge-House

二世帯住宅の設計は、親から子への暮らしの主導権の移動が現実になる。空港開港以来、変貌著しい成田ではあるが、まだ十分に田園風景の残るこのあたりの家並みの中に、「コンクリートの打ち放しの無機質な空間」を希望したというこの住宅設計は、あきらかに子世代の強い感覚先行がうかがえる。

両親と成人した子息の空間を中庭で囲んで共有空間とし、さらに2階をブリッジでつなぐなど、住空間の工夫も見られるが、敷地いっぱいに屹立するその外観は、まだ穏やかな集落風景の中では異質感をぬぐえない。

世代交代は個々の住宅の変化ばかりでなく、やがては集落風景も変えてゆくだろう。その過渡期にある地域にあって、このモダン建築は変化を象徴する実験的な役割があると奨励賞の意義を認められた。

伝統に見る坪庭などの中庭は狭小な市街地住宅の知恵であるし、軒高や屋根勾配を揃えるのは近隣との調和をはかつてのこと。しかし、この家の中庭は近隣に集いの空間を提供して新しい試みを果たした。

このモダン建築の試みが、この地域の新しい生活と景観をどのように導くか、その行方を見守りたい。(野口瑠璃)

(撮影/デ・スタイル建築研究所)



全景 南側ファサード



中庭夜景 ライトコート

建築主：社会福祉法人千葉ベタニヤホーム
設計：株式会社藤木隆男建築研究所
施工：清水建設株式会社千葉支店
所在地：千葉市若葉区

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

地域における子育て家庭を総合的に支援する複合型施設

旭ヶ丘母子ホーム・保育園・児童家庭支援センター

緑に恵まれた閑静な立地に改築された新しいタイプの児童福祉の拠点施設。高低差のある敷地を巧みに利用して、前面道路に面して中庭を囲んだコの字型の配置計画とし、隣接する公園との一体化を図っている。

低層階に保育部門、2,3階の中層階に母子部門及び児童家庭支援センターを設置し、北側の高層階には40世帯の母子生活支援施設が設けられている。

南側道路に面して地域に開かれた交流スペースやイベントホールを配置し、地域住民が自由に利用できるよう専用出入口が確保されている。

周辺環境に調和した色彩計画や屋上緑化に努め、木質系の多用、庇や縁側などを積極的に採り入れた人に優しい空間構成は、実に快適で心地よい。何よりも子供たちの生き生きとした楽しげな生活ぶりが印象的であった。

外部からの不審侵入者に対するセキュリティー対策においても、カメラや通報装置を駆使して万全を期している。

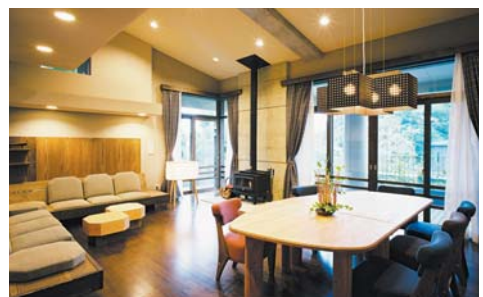
施主側と設計者が長い時間をかけてソフト、ハード両面にわたって綿密に練り上げたスタディーの結実であり、その完成度の高さに敬意を表したい。

欲を言えば、母子寮高層棟の表情にいま一つ工夫が欲しかったとの意見もあった。(明智克夫)

(撮影/清水建設株式会社)



南東公園側全景



グループホーム型母子室リビング